



令和8・9年度（R8-9FY） 令和8・9年創薬クラスターキャンパス整備事業

Nakanoshima Qross Global Startup Support

グローバルスタートアップ支援 募集要領

モデルとなるSUの成長段階・海外展開目的に応じて、NQと連携する世界の最適なクラスター・VC・Pharmaへつなぎ成功モデルを創出
Nakanoshima Qrossの個別伴走型グローバル支援プログラム

2026年9月

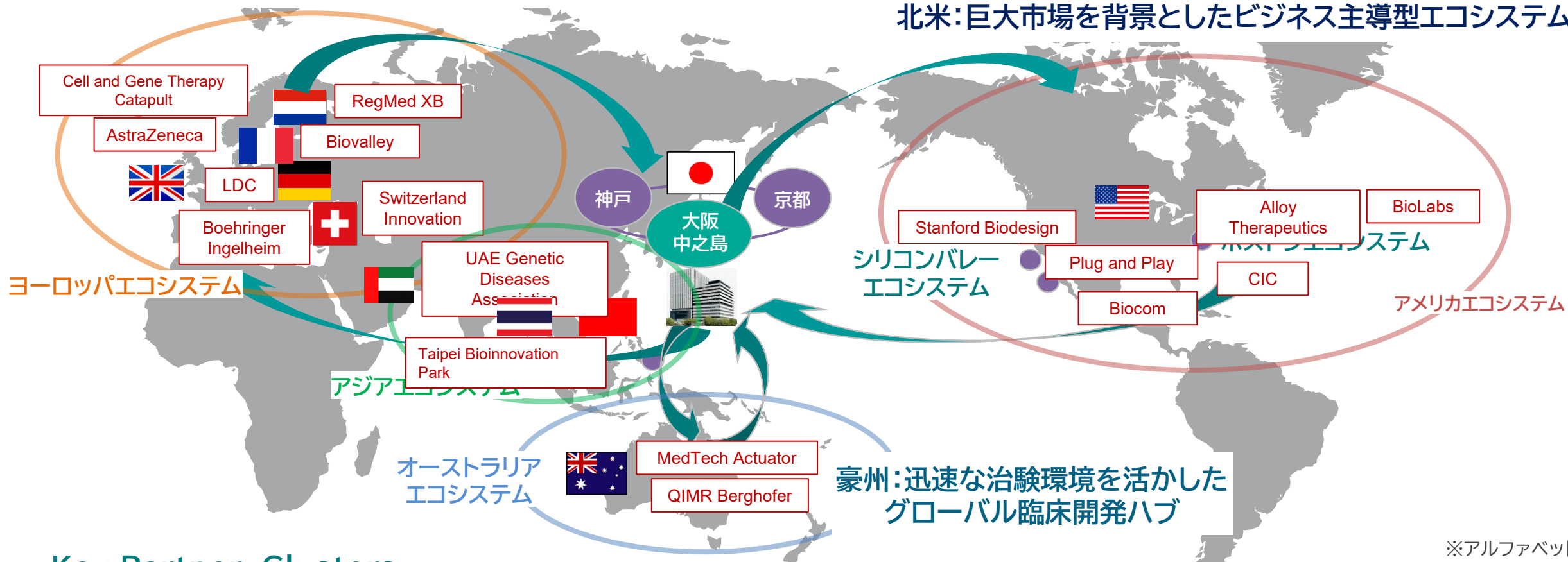
一般財団法人 未来医療推進機構（Nakanoshima Qross）

Nakanoshima Qrossのグローバルネットワーク



欧州：政府・国家戦略による国際連携型イノベーション政策

北米：巨大市場を背景としたビジネス主導型エコシステム



※アルファベット順

Key Partner Clusters



創薬シーズの実装環境・グローバル規制対応・スタートアップ支援
グローバル投資を一体で提供できる唯一の拠点として、

世界に伍するグローバルスタートアップエコシステム



世界に通用する創薬CXO人材
/グローバル基準の創薬CDMO
人材育成(世界標準PDA連携)



海外クラスターとの連携による
国内外創薬スタートアップ
インキュベーション



海外投資家が集うグローバル投資
環境整備(Science Casino)

海外のみならず国内からも製薬企業や投資家が集まる
Nakanoshima Grossのグローバルエコシステムを確立し、
日本のサイエンスをビジネスにつなげることで世界に貢献する

令和8・9年度「Global Startup Support」とは

未来医療国際拠点「Nakanoshima Qross」をベースに、海外トップクラスのクラスターとの連携により、成長段階・海外展開準備度に応じて3つのステージに区分し最適な支援を提供。また、国内外大型イベントを成長機会として活用するとともにグローバルクラスターとの共同支援により、世界市場で通用する創薬スタートアップを育成する。



単なる海外派遣事業ではなく、SUの状況に応じた個別支援で世界市場での具体的な成果創出を目指す事業

創薬スタートアップの成長段階に応じた段階的支援モデル



1 Expand Stage

海外展開実行ステージ

支援期間:2026年10月～2028年2月

対象

海外展開実績・事業成熟度を有し、共同研究・ライセンスアウト・資金調達を本格推進する段階

支援内容

- 4～5社を重点選定し、海外クラスターと共同で個別伴走支援
- BIO-Europe、London Life Sciences Week、J.P. Morgan Healthcare Conference等で海外VC・製薬企業・KOLと戦略的マッチング
- 共同研究・ライセンスアウト・資金調達等の具体的な成果を創出
- 国内のGlobal Startup EXPO、無菌シンポジウム等の国内大型グローバルイベントでビジネスマッチング支援

第1次募集(9月14日～18日)
10月2日 7社採択

2 Connect Stage

海外展開準備ステージ

支援期間:2027年4月～2028年2月

対象

研究開発・エビデンス取得を推進中で、1～2年以内の本格的な海外展開が期待される段階

支援内容

- 4～5社を選定し、海外展開戦略・事業計画・ピッチ・海外規制対応の個別メンタリングを支援
- 海外クラスターの専門家による伴走支援
- BIO International Convention、BIO-Europe等を活用し本格展開へ移行

第2次募集(2027年春予定)

3 Discover Stage

創業・シーズ育成ステージ

支援機関:2026年12月～2028年2月

AIアクセラレーション支援

対象

事業・開発戦略の高度化が必要な段階
非臨床開発等の高度化が必要なアーリー段階のスタートアップであり、かつ、TPP(開発目標プロファイル)が定まっていること

支援内容

- 5社程度を選定し、Alloy Therapeutics「TPP Engine」を活用した医薬品開発の設計支援
- NQのシェアラボでの非臨床データ蓄積支援(専門家による研究デザイン支援)

募集(9月14日～10月30日)
※11月中採択予定

3 Discover Stage

創業・シーズ育成ステージ

支援機関:2026年12月～2028年2月

座学・実践アクセラレーション支援

対象

研究機関発のアーリーシーズ段階の研究者であり、かつ、TPP(開発目標プロファイル)を固める前の段階であること

支援内容

- 研究者10人程度/回を選定(第1次・第2次で計20人程度)。BioLabs Academy Education Programの創業アクセラレータープログラム。
- 研究者や創業初期のバイオスタートアップに対して、グローバル市場を見据えた事業戦略、実践的なメンタリング、事業化に必要な知見を支援

第1次募集(9月14日～10月30日)
@中之島クロス※11月中採択予定
第2次募集(12月以降)
@BioLaBs Tokyo※2月末採択

Discover Stage

Discover Stage: 2つの独立した応募区分 募集期間: 9月14日～10月30日(金)

Discover Stage(創業・シーズ育成)は、A: AIアクセラレーション・非臨床データ蓄積支援 B: 座学・実践アクセラレーション支援の2つのプログラムを別々に募集・支援します。なお、AとBの支援対象条件として、赤字の違いがありますのでご注意ください。

A AIアクセラレーション・非臨床データ蓄積支援

対象

事業化の基盤整備を進め、事業・開発戦略の高度化が必要な段階
非臨床開発等の高度化が必要なアーリー段階のスタートアップであり、かつ、TPP(開発目標プロファイル)が定まっていること

主な支援

- ✓ 投資家に選ばれるためのAI支援及び専門家による研究デザイン支援
- ✓ NQシェアラボでの非臨床データ蓄積支援 など

採択予定(案) **5社程度**

B 座学・実践アクセラレーション支援

対象

大学・研究機関発のアーリーシーズ段階の研究者であり、かつ、TPP(開発目標プロファイル)を固める前の段階であること

主な支援

- ✓ BioLabs Academy Education Programの創薬アクセラレータープログラム。
- ✓ 研究者や創業初期のバイオスタートアップに対して、グローバル市場を見据えた事業戦略、実践的なメンタリング、事業化に必要な知見を支援

採択予定(案) **研究者 合計10人程度**

※開催場所: 中之島クロス

12月以降の2次募集でBioLaBs Tokyo: 10名募集予定

応募区分A:AIアクセラレーション・非臨床データ蓄積支援

AIツールの活用による、TPP(Target Product Profile)策定支援、専門家伴走によるWetラボにおける非臨床データ蓄積を支援

DISCOVER A

AIアクセラレーション支援

支援期間(案)

2026年12月～2027年12月

- ✓ 2026年12月AIスクリーン支援
- ✓ 2026年12月～2027年12月
研究デザイン構築支援
- ✓ 2027年4月～2027年12月
非臨床データ蓄積支援

採択予定(案)

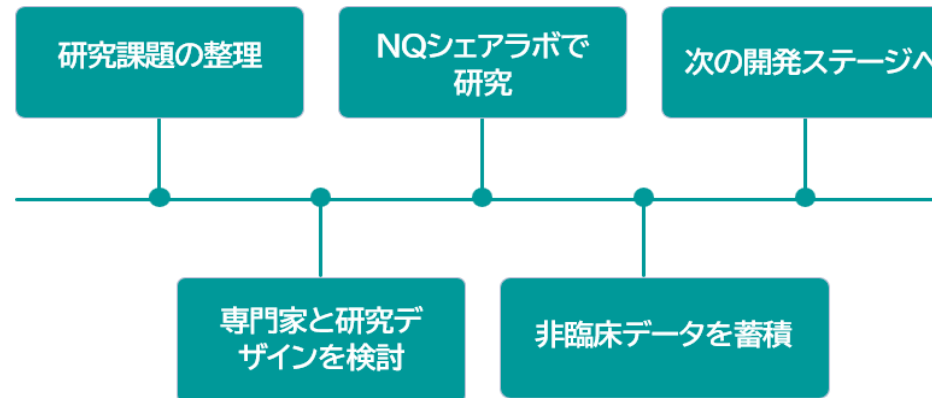
5 社程度

支援対象

TPP、非臨床開発等の高度化が必要なアーリー段階(SU)

投資家に選ばれるためのAI支援(Alloy Therapeutics)
& 専門家による研究デザイン支援(xCARE)

NQシェアラボを活用した非臨床データ蓄積支援



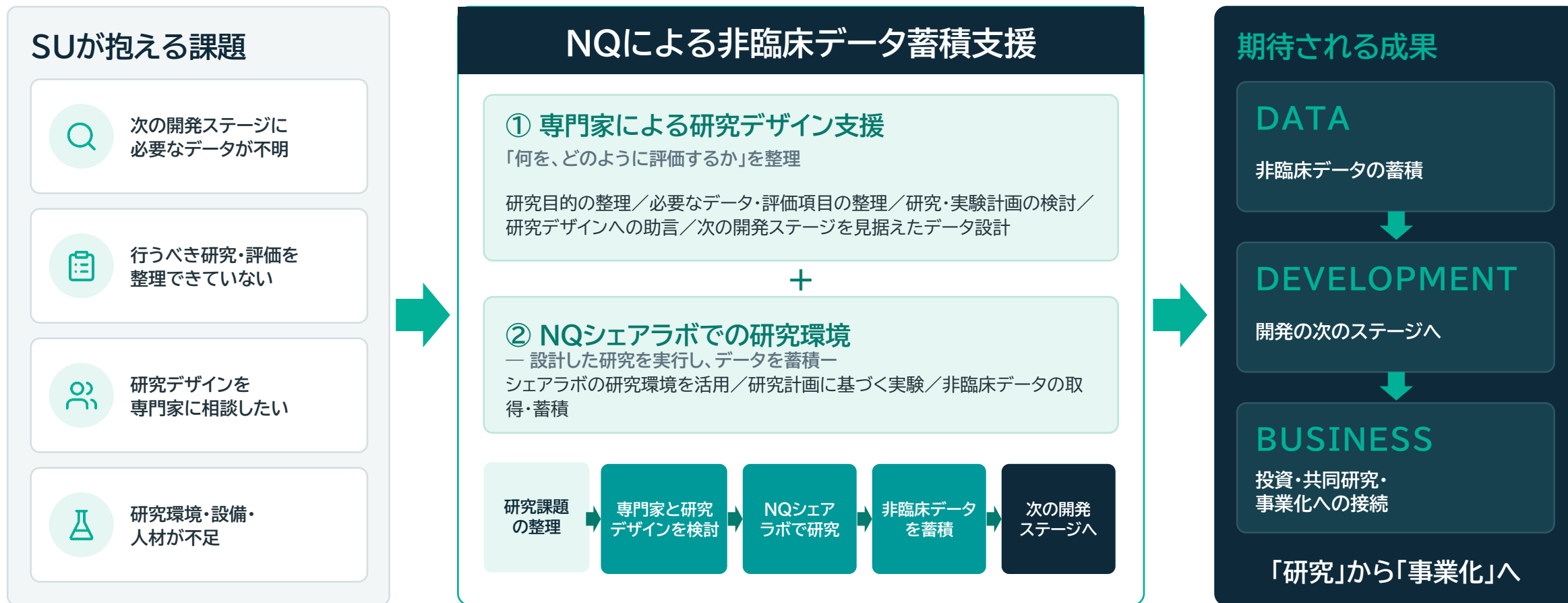
※詳細P26参照



1～2社のモデル的な集中支援を行うSUに対する追加的支援
投資家目線の評価軸(スクリーン)を用いた継続的なメンタリング
(AlloyTherapeutics)

NQシェアラボを活用した非臨床データ蓄積支援(2027年4月～12月)

専門家による研究デザイン支援 × NQシェアラボ —「場所の提供」だけではなく、研究デザインによるデータ蓄積を支援



NQの特徴 ラボを提供するだけではなく、次に必要なデータを専門家とともに考え、研究デザインからデータ蓄積まで支援

※専門家による研究デザイン支援とNQシェアラボの研究環境を活用し、SU自身による非臨床研究・データ蓄積を支援する

応募区分B:座学・実践アクセラレーション支援

研究者や創業初期のバイオスタートアップに対して、グローバル市場を見据えた事業戦略、実践的なメンタリング、事業化に必要な知見を支援

DISCOVER B

座学・実践アクセラレーション支援

支援期間(案)

2026年12月～2027年8月

採択予定(案)

10人程度(案)

※応募要件を満たす方は定員まで原則受入。
※第1次募集＝大阪会場分。第2次募集(東京会場)
で別途10人程度、2コホート計20人程度

支援対象

大学・研究機関発のアーリーシーズ段階
の研究者、かつ、TPPを固める前段階

BioLabs Academy Education Program 創薬アクセラレーター「BLA-TAP」

Discover Stage の最も早い入口として、TPP・開発戦略をこれから固める段階の研究者を対象に、全9回の座学＋ワークと個別メンタリングで、Demo Dayでの製薬企業・VCとの接点づくりまでを一気通貫で支援します。第1次＝大阪会場(中之島クロス)、第2次＝東京会場(BioLabs Tokyo)の2コホート制で、各10人程度を受け入れます。

01 座学＋ワーク(全9回)

創薬プロセス総論・TPP設計から知財、GMP/CMC、薬事、非臨床・臨床開発まで。毎回、講義＋自案件を題材としたワーク。

02 個別メンタリング

採択者ごとに実務家メンターが伴走。開発戦略・知財・薬事の論点を継続的に整理し、次を取るべきデータを明確化。

03 Demo Day・マッチング

各コホート最終回(大阪2027年5月／東京2027年8月)で製薬企業・VCへ英語ピッチ。選抜シーズはフェーズ2(別予算)へ。

04 グローバル・ネットワーク

BioLabsの国際ネットワークと海外招聘講師によるセッション。段階に応じて海外クラスター・投資家への個別紹介も検討。

フェーズ1(本委託)実施期間 2026年12月～2027年8月 ※大阪・東京の2コホート

2026年12月～2027年6月

大阪コホート(10人・全9回)

※本募集

2027年3月～8月

東京コホート(10人・全9回)

※12月以降募集予定

各コホートのDemo Day後

フェーズ2(製薬企業協賛事業)

※ 大阪コホートの開催前(10月頃予定)BioLabsのオンラインでのプログラム紹介を開催(受入者にはアーカイブ＋個別キャッチアップで提供)。

※ フェーズ2(全7回)は各コホートのDemo Day直後から、製薬企業協賛の連携事業としてのコホートも予定しております。

※プログラム詳細は別紙2 参照

BioLabs Academy Education Program / BLA-TAP(BioLabs Academy Translational Accelerator Program)

アカデミア・創業初期のシーズを、“グローバルで通用する開発案件”に育てる

非希釈型(エクイティを取得しない)創薬アクセラレーター・プログラム

BioLabs＝米国マサチューセッツ州ケンブリッジに本拠を置き、世界の主要バイオクラスターで共用ラボ・オフィスを展開する会員制の国際ネットワーク。本プログラムはその教育部門 BioLabs Academy が提供します。

Discover Stage における本プログラムの位置づけ — 対象とする「段階」

区分B(本プログラム) 座学・実践アクセラレーション支援

こんな段階の方が対象です

- 大学・研究機関の研究者、法人化前のシーズ、創業直後のスタートアップ
- TPP(開発目標プロファイル)や開発戦略を、これから固める段階
- 実用化に必要な知識・実務家ネットワークをまだ持っていない

ねらい: 開発の共通言語を獲得し、Demo Dayで製薬企業・VCとの最初の接点をつくる



区分A AIアクセラレーション支援

次の段階(ご参考)

- 開発候補と対象疾患が概ね定まっている段階
- TPPの精緻化、非臨床データの取得に進む段階

支援ツール: Alloy「TPP Engine」/NQシェアラボ

支援対象

大学・研究機関発のアーリーシーズ
／創業初期のSU又は研究者

定員

10名程度 / 募集回

※応募要件を満たす方は定員まで原則受入
第1次＝大阪会場／第2次＝東京会場(計20名程度)

支援期間

2026年12月 ～ 2027年8月

フェーズ1 ×2コホート(大阪・東京)

実施形態

大阪: 中之島クロス

東京: BioLabs Tokyo

+ オンライン配信・アーカイブ受講可

支援内容 — 4つの支援要素

別紙2

「聴くだけの座学」では終わらせない。講義・ワーク・個別メンタリング・出口接続を一体で提供します。

01 座学+ワーク(全9回)

Lecture & Workshop

- 毎回、前半は第一線の実務家による講義、後半は自分のシーズを題材としたワーク・発表。
- TPP(Target Product Profile)を軸に、開発の意思決定を「自分の言葉」で説明できる状態を目指す。
- 会場は大阪＝中之島クロス、東京＝BioLabs Tokyo。アーカイブ視聴にも対応し、遠隔地・多忙な研究者も受講可。

02 個別メンタリング(伴走支援)

1-on-1 Mentoring

- 採択者ごとに担当メンターを配置し、開発戦略・知財・薬事の論点を継続的に整理。
- 「次に何のデータを取るべきか」「誰と組むべきか」を、案件ごとに具体化する。
- 必要に応じて外部専門家(規制当局OB/OG、弁理士、CRO/CDMO)へ接続。

03 Demo Day・マッチング

Demo Day & Matching

- 各コホートの最終回(大阪:2027年5月/東京:2027年8月)に製薬企業・VCへ英語ピッチ。
- ピッチ資料・事業計画はプログラム内で作り込み、複数回のリハーサルを実施。
- 選抜シーズはフェーズ2(製薬企業協賛・別予算の関連プログラム)へ進み、共同研究・ライセンス交渉を実践。

04 グローバル・ネットワーク接続

Global Network

- BioLabs の国際ネットワーク(米国ケンブリッジ等の主要クラスター)と、その日本拠点 BioLabs Tokyo のコミュニティに接続。
- 海外招聘講師(FDA経験者等)によるセッションをオンライン等で実施。
- 案件の段階に応じて、海外クラスター・CRO/CDMO・投資家への個別のイントロダクションを検討。

カリキュラム — フェーズ1(全9回・本委託)／フェーズ2(別予算)

同一カリキュラムを大阪・東京の2コホートで実施します。フェーズ2はDemo Day選抜者を対象とする別予算の関連プログラムです。

フェーズ1:本委託の対象(全9回 ×2コホート)				フェーズ2:別予算(製薬企業協賛)	
				S1:2027年6月～10月／S2:2027年9月～2028年1月	
回	テーマ	S1・大阪	S2・東京		
Day 1	トランスレーショナルリサーチ総論とアンメットニーズ ※S1事前	2026年9月	2027年3月	Day 1	知財戦略 — 技術デープダイブ
Day 2	グッド／バッド ケーススタディ ※S1事前	2026年10月	2027年4月	Day 2	IND取得戦略・CMC計画・非臨床試験設計
Day 3	創薬プロセス概論と TPP 設計	2026年12月	2027年4月	Day 3	規制パスウェイ・マッピング(日／米／欧)
Day 4	アカデミア知財戦略 — 大学発技術をどう守るか	2027年1月	2027年5月	Day 4	マーケットアクセス・薬価・医療経済
Day 5	GMP／CMC 基礎	2027年2月	2027年5月	Day 5	ビジネスモデルと資金調達戦略
Day 6	薬事規制と申請戦略(日本／米国／欧州)	2027年3月	2027年6月	Day 6	パートナーリング戦略と BD シミュレーション
Day 7	非臨床開発 — ADMET、PK/PD、バイオマーカー	2027年4月	2027年6月	Day 7	Demo Day(フェーズ2成果発表)
Day 8	臨床試験デザイン(Phase I-III)と臨床開発実務	2027年5月	2027年7月		
Day 9	Demo Day — 成果発表／フェーズ2マッチング	2027年6月	2027年8月		
※ Season 1(大阪)の Day 1・2 は受入決定前に開催されるため、本委託の枠外でBioLabsが先行開催し、受入者にはアーカイブ視聴+個別キャッチアップで提供します(Season 2 は該当しません)。				本委託の対象外です。各コホートのDemo Day直後から、選抜されたシーズを対象に、製薬企業の協賛による別予算でコホートごとに実施します。	

支援スケジュール — 大阪・東京の2コホート

第1次募集＝大阪会場、第2次募集＝東京会場。2027年3～5月は両コホートが並行しますが、会場が異なるため受講者の重複はありません。



本委託の対象はフェーズ1(大阪・東京の2コホート)で、実施期間は2026年11月～2027年8月です。フェーズ2は、各コホートのDemo Day直後から製薬企業協賛の別予算でコホートごとに実施します(大阪:2027年6～10月、東京:2027年9月～2028年1月)。

期待される効果 — 修了時の到達像

ゴールは一つ。「このシーズは Investable Target になりうるか」に、受講者自身が答えられる状態にすることです。

Investable Target = 投資家・製薬企業が、次のステージゲートに資金を投じる判断を下せる状態

科学的仮説の確からしさ・開発計画の実現性・それを実行するチームの三点が、絶対評価ではなく「相対評価の土俵」に乗っていること。受講者は個々のシーズを持って個別に参加するため、本プログラムはその一件一件をこの状態に近づけることを目的とします。

STEP 1

製品設計とアンメットニーズの設定

到達点: TPPを使いこなせる

- 標準治療フローと専門医の視点を踏まえ、取り組むべきアンメットニーズを自ら定義できる。
- 想定製品スペックを TPP (Target Product Profile) として言語化し、開発計画の立案とチーム内の意識共有に使える。
- 「唯一無二」ではなく、競合に対する相対的な位置づけで技術の優位性を説明できる。

STEP 2

IND-enabling study に着手できる状態

到達点: 規制・製造の知識とネットワークを得る

- 非臨床パッケージ、治験薬GMP/CMC、規制当局相談の要件を理解し、IND-enabling study の設計を議論できる。
- 規制当局OB/OG、CRO/CDMO、知財専門家との実務ネットワークを持つ。
- 各ステージゲートの成功確率とリスクの所在を、自分の言葉で説明できる。

STEP 3

ライセンスアウトとチーム組成の準備

到達点: 導出と経営体制の議論ができる

- 導出先候補との議論に必要な論点(データパッケージ、知財、契約条件、バリュエーション)を理解している。
- 適応拡大に耐えうる製品設計という観点から、導出後を見据えた開発判断ができる。
- 事業化は一個人で担えないことを前提に、CEOを含む経営チームの確保に向けた準備ができる。

Discover Stage

募集概要

募集対象

創薬・再生医療のアーリー段階の開発案件を募集します。

対象者

A: AIアクセラレーション・非臨床データ蓄積支援

TPPが定まっており、事業・開発戦略の高度化が必要な段階、非臨床開発等の高度化が必要なアーリー段階のスタートアップ

B: 座学・実践アクセラレーション支援

大学・研究機関発のアーリーシーズ段階の研究者であり、TPPを固める前の段階であること

支援・対象分野



創薬

低分子医薬品、抗体・バイオ医薬品、
中分子・ペプチド医薬品
(※創薬プラットフォームも含める)



再生医療

細胞医療、遺伝子治療
組織工学

応募要件(案)

- ・法人の場合は日本国内に法人格を有していること。法人格を有しない場合は、日本に在住している大学・研究機関発シーズ・研究者個人であること
- ・【区分A・B共通】対象分野(創薬／再生医療)に該当する開発案件であること
- ・【区分B】治療法の開発を独立して進められる基盤となる技術を、応募者自身が保有していること
- ・【区分B】当該技術について特許を出願済みであること、または出願を予定していること

Discover Stage全体スケジュール



募集申請

Discover Stageの募集はWeb申請方式で受け付けます。

※Web申請サイトは以下のURLをクリックください。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfl0fcesRKOjdy0QmgGWWGgB5SiLOvNGn-CUgCckSON7S4XSw/viewform?usp=header>

WEB

Web Application

応募受付

2026年9月14日(月)～10月30日(金)

1

Webフォーム入力

基本情報・事業概要・海外展開の状況等を入力(項目は次ページ)



2

添付資料アップロード

5分程度のピッチ資料(英語)をアップロード



3

送信・応募完了

入力内容を確認のうえ送信。受付確認の連絡をもって応募完了(案)

Web申請フォーム項目(案)

① 基本情報

申請区分(A or B)
会社名／本社所在地／代表者／担当者／Email／
電話※研究者の場合は、個人情報

③ 研究・開発内容

研究・開発概要(研究開発ステージ)

⑤ 実績

特許件数、競争的資金獲得 等
※発表論文と特許情報(PCT出願の番号等)、
グラント獲得の実績根拠のURL

② 会社・事業概要

※法人格がある場合
企業Webサイト(会社概要)、創業年、従業員数、事業
概要

④ 技術優位性

技術の強みの説明
(市場規模／競合／競争優位性／ビジネスモデル)

⑥ 事業計画

実用化に向けた研究戦略

添付資料 研究・開発内容資料

応募方法

選考は書面のみで実施します。



Web申請 9月14日(月)～10月30日(金)

NQ公式サイトに応募フォームから申請



書面審査 11月中

申請内容・添付資料に基づく書面審査



総合評価・採択発表 11月中 ※予定

採択案件を公表し、各者に結果を通知

審査の視点

書面審査は次項の5項目を基本として評価します。

区分A:書面審査評価項目

区分A(AIアクセラレーション支援)は、以下の5項目を基本とし評価する

評価項目	評価観点	配点
1.シーズの科学的独自性・新規性	基盤となる科学的発見・技術の先進性と独自性。既存の治療法・技術では解決できない課題への新しいアプローチであるか	0～4点
2.科学的仮説の確からしさ	主張する現象・メカニズムを裏付ける予備データ・論文等の質。仮説を検証するための実験デザインが妥当か、今後何を検証すれば確からしさが高まるかが明確か	0～4点
3.想定市場とアンメットニーズの大きさ	対象疾患・用途のアンメットメディカルニーズと将来市場の規模・成長性。グローバル展開の潜在性。	0～4点
4.事業化への課題認識と戦略の可塑性	現状課題を自ら認識できているか。検証結果に応じて対象疾患・開発ルートを柔軟に見直せる余地(ピボット可能性)を持っているか	0～4点
5. コミットメント	研究者・経営チームの専門性と事業化・海外展開への学習意欲・本気度。本プログラム(AI活用支援／座学・実践)を吸収し成長できるか	0～4点

区分B:応募要件と審査の観点

区分Bは、応募要件の充足確認を基本とします。定員を超える応募があった場合にのみ、以下の観点で順位付けします

応募要件(すべて満たすこと)		定員超過時の順位付けの観点		各 0～4点
1	対象分野(創薬／再生医療)に該当する開発案件であること	1. 適応の可塑性	特定の疾患・用途に固執せず、技術の適用先を複数の観点から検討する余地があるか	
2	治療法の開発を独立して進められる基盤となる技術を、応募者自身が保有していること	2. 検証への開放性	現時点の仮説を、検証結果や外部からの助言に応じて見直すステージにあるか	
3	当該技術について特許を出願済みであること、または出願を予定していること	3. 基盤技術の独立性	他者の許諾に依存せず、応募者が主導して開発を進められる技術か	
		4. 知的財産の設計余地	出願内容について、今後の適応拡大を見据えた設計を議論する余地があるか	
		5. 受講コミットメント	全9回の講義・ワークと個別メンタリングに参加する時間を確保できるか	

本プログラムは、シーズの完成度を競う選抜ではありません。

想定市場の規模や事業化計画の具体性は評価しません — それらを設計することが本プログラムの目的です。むしろ、出口が未確定であり、検証結果に応じて対象疾患や開発ルートを見直せる案件(ピボットの余地が大きい案件)を歓迎します。